

株式会社 新しい風さとやま 会社案内



ごあいさつ



みなさん こんにちは。

霞ヶ浦の環境問題に取り組み 10 年以上が経過しました。その間、その地その地の「らしさ」を生かした地産地消（含むエネルギー）、循環型社会への移行が一つの解決策だとの思いで過ごしておりました。そういう中で、環境問題に直結する農業をめぐる状況には、TPPも相まって激しい変化の予兆を感じます。

しかし、農業政策には環境の視点が欠落しています。このままでは我が国の農業の原風景とも、生物多様性の宝庫ともいふべき「さとやま」の消滅の危機さえ覚えます。

大きな変化に一石を投ずべく、環境加害型とは訣別して、環境貢献型での農業の再生にチャレンジいたします。

具体的には、霞ヶ浦の水源地である谷津田から水辺までの谷全体を無農薬、無化学肥料での農業の対象とします。小さな生きものにもやさしい農業が再生されてゆく先には、次々とバリューチェーンの展開が展望されます。その地の「らしさ」に根付いた循環型社会への移行であり、生物多様性の回復、低炭素社会の実現といえるでしょう。

20 年以上の活動の成果を有する NPO 法人アサザ基金殿との協働をベースに、地元農家、市民、小中学校、関連公共団体等のご理解、ご協力を得ながら取り組んでまいります。

そして美味しい、心楽しい物語の発信に努めます。

どうぞご期待頂き、又、ご愛用のほど心よりお願い申し上げます。

2016 年 4 月

(株)新しい風さとやま 取締役社長 牧 文一郎

株式会社 新しい風さとやま

サービス・事業内容

里山農業による農作物生産販売事業

1. 里山に守られた水源地で育った「さとやま米」の提供。

このお米は良い環境に生息する生きものが品質と安全を保証します。こだわりの商品をお探しの方、より安心安全を求める方をはじめ、離乳食、アレルギー対応食、病院食にもお応えします。

- ・再生した田んぼの地力をいかした完全無農薬無肥料米。
- ・完全無農薬無化学肥料米。（肥料には抗生物質無混入牛糞と無農薬ワラでつくった完熟堆肥を使用。）

2. ビオトープ農法（自然の中での天敵導入）で生きものと共に丈夫に育った無農薬無肥料の野菜の提供。

休耕地を再生し、地力を活かして育てた風味豊かな旬の野菜をお届けします。

参加型里山農業事業

1. 「学ぶ、見る、体験する、交流する」がセットになったエコツーリズムの提供。

（市民向け、企業研修、修学旅行、国内外からのスタディツアー、インバウンドなど）

2. 里山再生参加コースの提供。

食べて参加コース：農家カフェや農家レストランで里山のおいしい恵みを提供します。

里山オーナーコース：MY 田んぼ制度など里山再生と作物づくりにチャレンジできます。食べるお米や野菜をはじめ地酒やせんべいづくりなど様々なコースを、充実したサポート体制とともに提供します。

就農コース：新しい風さとやま農業を目指す方を対象に、ビジネス設計から農業技術までトータルで育成するコース。

地域の信頼に支えられたものづくり事業

1. 地元の小中学校で行われる総合学習と連携したものづくり。

- ・耕作放棄地の復田から田植え、稲刈りといった体験学習を提供します。
- ・自分達で育てた農作物のブランディングやそれを活かした加工品のブランディング、商品化の機会も提供します。

2. 地域ぐるみのものでづくり

・地域の人々の共感に支えられてきた地場産業等とコラボレーションによるものづくり。（地酒、醤油、米菓、漬物など）に取り組みます。地域が育んできた本物の味、伝統の味をお届けします。

3. 地域ぐるみで保証する安心安全なブランドの提供

地域の共感の輪の中から生まれてきた商品なので、安心安全なブランドとして信頼できる一品をみなさまにお届けいたします。

わたしたちは里山から社会に新しい風を送りイノベーションを起こす会社です。

新しい風その1 21世紀はネットワークの時代、わたしたちは、霞ヶ浦流域の里山から新時代の農業を発信します。

里山には、新しい時代を切り開く多くの資源や知恵が眠っています。わたしたちは、里山に潜在する資源や知恵を生かすことで大規模集約型とは異なるネットワーク型の農業ビジネスモデルを興し、これまでにはない高付加価値の農産物やサービスを提供していきます。

21世紀型社会のキーワードは、ネットワークです。ネットワークは発想の転換を促し、社会に潜在する価値を浮上させイノベーションを起こします。わたしたちは、農業にイノベーションを起こすためのヒントを、霞ヶ浦流域でネットワーク状に分布する里山の田んぼ「谷津田」に見出しました。

新しい風その2 わたしたちは、里山農業を通して自然と共生する社会を創造します。

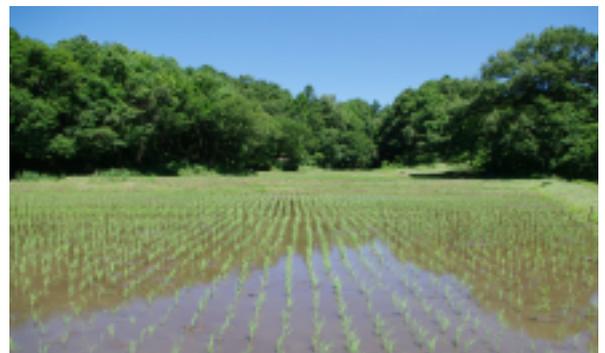
21世紀の社会のもうひとつのキーワードは、自然との共生です。自然との共生が人類共通の課題となった今日、里山への関心が高まっています。里山は自然と人間の対話の歴史によって生まれた場です。そこには人間が自然と共生するための文化が蓄積されています。わたしたちは、里山に生息してきた多様な生きものを呼び戻すと同時に、農業を通して里山が育んだ共生の文化や伝統を活かした持続可能な循環型社会のビジネスモデル「里山農業」を構築します。

新しい風さとやまは、このふたつのキーワードを基に大胆な発想の転換を行い、地域の農業に新たな可能性を求め、新しい社会づくりに挑戦する会社です。

新しい風その3 里山に潜在するネットワーク谷津田、わたしたちは見捨てられた農地から新たな価値を創造します。

谷津田は、霞ヶ浦流域など全国の里山でネットワーク状に分布する古くからある田んぼですが、特に霞ヶ浦流域には高い密度で分布しています。谷津田は、水源地にあって美味しい米が穫れることから大切に守られてきましたが、田んぼが谷間にあり大規模効率化が困難なことから近年では多くが見捨てられ荒廃し問題化しています。

しかし、新たな発想で谷津田の農業を復活させることができれば、今でも清らかな水源と豊かな自然によって育まれた他にはない良質の米が生産できます。わたしたちは、デメリットをメリットに転換する新たな発想で谷津田を価値創造の場に変え、地域を活性化します。



再生前後の谷津田の変化イメージ

新しい風その4 水源地谷津田だからできる安心安全の農作物を提供します。

谷津田は、枝分かれした谷間にある田んぼです。谷の周囲は自然豊かな森に囲まれています。わたしたちは、このような谷津田で周囲の森から湧くミネラル豊富な清らかな水を使い、森によって周囲からの農薬の飛散などから守られた田んぼで、無農薬無化学肥料に徹した米づくりを行います。再生した谷津田で、水源地でしかできない高品質の米づくりを実現していきます。また、谷津田は上流の水源地にあることから、下流域で起きる洪水被害を受けず、震災時などに灌漑施設が被害を受けた際にも湧水を利用することができ、谷間にあるので暴風害も避けることができます。災害など非常時にも、お客様に米などの農作物を生産し供給できます。

新しい風その5 汚染に弱い生きもの達を信頼の証として安心安全を目に見える形でお届けします。

谷津田は水系の最上流部にあって森に囲まれ水源地にあることから、生きものが農薬や化学物質などの影響を避けて生息できた貴重な場所です。そのため、他の地域では見られなくなった蛍やトンボ、メダカ、サワガニなど農薬や環境汚染に弱い生きものが生き残る貴重な場所となっています。わたしたちは、これらの生物が元気に生息できる田んぼの環境を整えながら米づくりをすることで、消費者に安心安全を目に見える形でお届けしていきます。米を生産する谷津田の田んぼや小川での生物調査や水質調査等を定期的に行い、その結果を公表していきます。

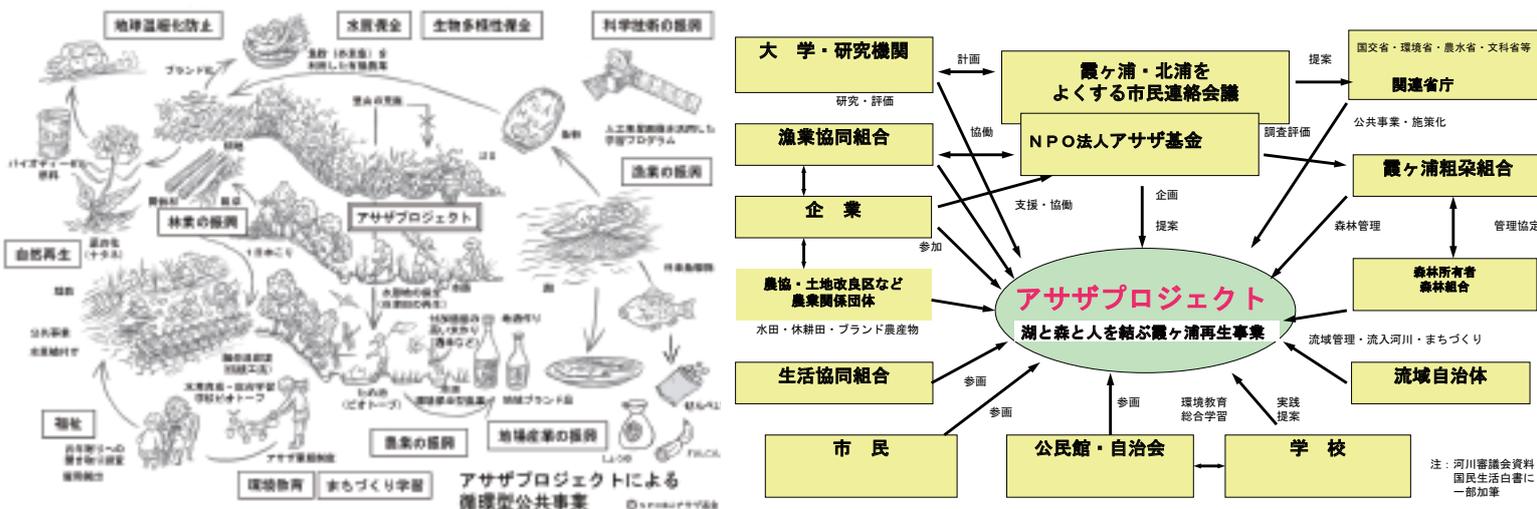
新しい風その6 首都圏の地の利を活かして、希少な谷津田米の安定供給を実現させます。

谷津田の米は美味しく安心安全！でも、谷津田は分散して分布しているため、集約化や大規模化が困難で消費者に安定供給することができないと長年考えられてきました。しかし、実際には霞ヶ浦流域などがある関東平野は平坦で、首都圏近郊に位置し交通網もよく整備されているので、分散分布している谷津田間を効率よく移動することが可能です。わたしたちは、このような地の利を活かして、谷津田での農業をネットワーク化することで、希少な谷津田米の生産を効率化集約化し、効率的かつ安定した供給を実現させます。

新しい風その7 NPO アサザ基金と連携し社会の多様な分野と結びつく新しい農業モデルを創造します。

わたしたちは、霞ヶ浦流域等で20年以上、延28万人が参加して農林水産業や企業、学校、地場産業、行政等と協働する多様な事業展開を行ってきた認定NPO法人アサザ基金と連携することで、農業と社会の様々な分野が結びつく多様なビジネスモデルを創造していきます。また、各地の小中学校の学習と連携して耕作放棄地再生や米づくり、ブランディング等を行います。わたしたちは、新しい付加価値を持つ農産物や加工品やサービスを提供すると共に、社会の多様な分野と協働して霞ヶ浦の再生や持続可能な循環型社会の構築を実現させていきます。

アサザプロジェクトのネットワーク展開図



注：河川審議会資料 国民生活白書に一部加筆

新しい風その8 都市近郊に里山の景観をまるごと再生し多様なサービスを提供していきます。

谷津田の荒廃が各地で急激に進んでいます。農家の高齢化や後継者不足によって耕作放棄地は年々増加傾向にあります。上流にある谷津田の荒廃が進むと、下流にある霞ヶ浦や牛久沼への影響も深刻化します。わたしたちは湖沼環境を保全するために、流域の主要な谷津田を丸ごと保全することを目指しています。これらの谷津田では、今後無農薬栽培の田んぼを精力的に拡大しながら周囲の森林を含め里山を丸ごと保全再生し、これらの地域を拠点にグリーンツーリズムや体験学習、修学旅行、農家カフェなど多様なサービスを首都圏の方々に提供していきます。



新しい風その9 成田・羽田へのアクセスの良さを活かし、外国人観光客に日本の里山文化を体験する場を提供します。

霞ヶ浦や牛久沼流域は、成田国際空港や羽田国際空港からのアクセスもよく、都心からも約1時間の圏内にあり、海外からの観光客を誘致するのに大変有利な条件を持っています。外国人観光客の多くは神社仏閣などを通して日本古来の文化や伝統に触れる機会があっても、里山の自然や文化に触れる機会はありません。わたしたちは、年々増加している海外からの観光客に、日本の伝統文化を代表する里山や伝統的な農業を体験する場を提供していきます。



新しい風その10 わたしたちは、里山から共感の輪を広げ多様な人々と協働で社会に新しい価値を創造していく会社です。

かつて里山に生息していた朱鷺やコウノトリの野生復帰やウナギの資源回復などが大きな関心を呼んでいます。朱鷺やコウノトリ、ウナギなどの生きものは、谷津田や雑木林などがまとまって残された地域でなければ生息できません。これらの生きものは、里山文化、そして、自然と共生する未来社会の象徴です。わたしたちは、農産物を購入される方々を、これらの生きもの達を呼び戻すという夢を共有し、社会に新たな価値を創造し根付かせていく取組みのパートナーと考えます。また、マイ田んぼ制度などの参加メニューも充実させていきます。商品と一緒に、谷津田の生物多様性の回復状況や目標実現に向けた歩みを購入者の方々にお伝えし、対話や交流を深めながら様々な事業を展開していきます。



わたしたちは、多様な人々と共に、社会に新しい価値を創造していく会社です。



株式会社 新しい風さとやま 会社概要

社名	株式会社 新しい風さとやま
創業	2016年1月25日
事業内容	農業（水稻）および関連事業
本社所在地	茨城県牛久市南3-4-21
電話番号	029-804-0155
FAX 番号	029-804-0092
WEB	www.atarashiikazesatoyama.jp
E-mail	innovation@atarashiikazesatoyama.jp
代表取締役社長	牧 文一郎
資本金	750万円（2016年3月14日）
役職員数	5名

事業規模の拡大について（目標）

2016年（1年目）	2,5ha
2019年（3年目）	10ha
2026年（10年目）	200ha